



学 会 通 信

第 67 号

2014 年 5 月 1 日発行

目次

第 21 回年次大会にあたって ご挨拶	2
第 21 回年次大会のご案内【第1報】	3
研究会報告	6
編集委員会ワークショップ(2月8日開催)報告と 論文投稿(21巻2号特集号)のご案内	7
ICoME2014のご案内	8
第7期 第8回理事会(定例)議事録	9
第7期 第9回理事会(定例)議事録	10
訂正通知	12
学会ロゴの完成	12
学会費納入のお願い、入会者・退会者	13

第 21 回日本教育メディア学会年次大会にあたって ご挨拶

大会実行委員長 村井万寿夫（金沢星稷大学）

平成 26 年 10 月 11 日（土）、12 日（日）の 2 日間にわたり、第 21 回日本教育メディア学会年次大会が石川県金沢市にある金沢星稷大学にて開催されます。

平成 24 年度学校における教育の情報化の実態等に関する調査結果（文部科学省調査：平成 25 年 3 月現在）では、石川県のデジタル教科書の整備率は福井県（59.9%）に次ぎ第二位（57.5%）です。また、電子黒板の整備率は 76.8%です。このようなことから石川県においてはデジタル教科書と電子黒板を活用した学習指導が進展している状況にあります。県内のいくつもの小学校にタブレット端末が導入されていることからそれが伺えます。

こうした中、本学会の年次大会が金沢星稷大学にて開催されることは、石川県における教育の情報化に向けた一層の取り組みに大いに期待することができます。手前味噌ですが、金沢星稷大学が地域貢献できる格好の機会にもなります。大会実行委員を代表して心より感謝申し上げます。

さて、今大会ではメディア活用の効果に焦点を当て、メディアの教育活用法とその効果について多くの参加者とともに熱い議論を展開したいと考えております。そのために、本学会では初めてとも言える「持ち込み授業」と「振り返り」を企画しています。

持ち込み授業：近隣小学校児童と教師によるタブレット端末を活用する 45 分の授業
振り返り：授業者と参観者によるタブレット端末の学習効果についての話し合い

金沢では、水越敏行先生や吉田貞介先生のご指導によって古くからメディアを活用する授業研究を行い、若手へと受け継いできています。授業を中心に学習者の行動や意識の変化を追いながらメディア活用を確かなものにするための実践研究が行われてきています。そのため、年次大会での「持ち込み授業」と「振り返り」を企画しました。これを 2 日間の大会の皮切りとし、各プログラムを充実したものにしていきたいと考えております。

課題研究は学会事務局や理事の先生方によって次のようなテーマを考えていただいております。

課題研究Ⅰ「テレビの歩みと教育」 コーディネータ：稲垣忠先生（東北学院大学）
課題研究Ⅱ「幼児教育とメディア」 コーディネータ：堀田博史先生（園田学園女子大学）
課題研究Ⅲ「情報活用能力の育成と評価」 コーディネータ：後藤康志先生（新潟大学）

シンポジウムについては大会実行委員で検討し、次のようなテーマで行いたいと考えております。

シンポジウムⅠ「教育の情報化」 登壇予定者：文科省関係者や本学会研究者など
シンポジウムⅡ「デジタル教科書」 登壇予定者：CoNETS の参加企業や本学会研究者など

年次大会が開催される 10 月は、金沢における“秋の味覚”も堪能できるものと思います。全国各地からお誘い合わせの上、金沢を訪問してくださいますよう、大会実行委員一同、心よりお待ちしております。

第 21 回日本教育メディア学会年次大会のご案内【第1報】

(1) 開催期日 2014年10月11日(土)～12日(日)

(2) 開催場所 金沢星稜大学

〒920-8620 金沢市御所町丑10-1 <http://portal.seiryu-u.ac.jp/>

(3) 開催スケジュール(予定)

10月11日(土)

- ・受付(9:30～)
- ・公開授業&振り返り(10:00～11:30)
 - ※開催校企画(メディアを活用した持ち込み授業とその振り返り)
- ・昼食(11:30～12:30)
- ・総会(12:30～13:50)
 - ※裏で開催校学生企画(総会に出席しない非会員向けの催し物)
- ・自由研究(14:00～15:30)
- ・シンポジウム1(15:45～17:15)「教育の情報化」(90分)
- ・懇親会(17:30～19:00)

10月12日(日)

- ・受付(9:30～)
- ・課題研究(10:00～12:00)
 - ・課題研究Ⅰ「テレビの歩みと教育」
 - ・課題研究Ⅱ「幼児教育とメディア」
 - ・課題研究Ⅲ「情報活用能力の育成と評価」
- ・昼食(12:00～13:00)
- ・自由研究(13:00～14:30)
- ・シンポジウム2(14:45～16:45)「デジタル教科書」(120分)

※上記スケジュールは仮のものです。

最終確定は、日本教育メディア学会 Web サイト (<http://jaems.jp/>) の「年次大会」をご確認ください。

(4) 発表申込み・原稿締切について

発表者の要件：発表者は会員であることが必須です。発表申込時点までに本学会への入会手続きを済ませてください。なお、入会申込書は学会ホームページからダウンロードしてください。また会員1名が発表できる件数は、課題研究1件、一般研究1件、計2件までとします。

(ア) 課題研究 (2ページもしくは4ページ)

課題研究 I	テレビの歩みと教育	コーディネータ：稲垣 忠 (東北学院大学)
--------	-----------	-----------------------

1959年に放送がはじまった教育テレビ(現在のEテレ)は半世紀を超える歴史があります。幼児向け、学校放送番組、高校講座、語学、生涯学習向け等、多様な番組が制作されています。民放で制作される教育番組や放送大学も含め、数多くの番組が教育現場を支えてきました。テレビはカラー化、衛星放送、デジタル化、3D、そして4Kへと進化してきました。加えて、インターネット上でも映像が配信されたり、ストリーミングによる放送も一般化しています。教育分野でもデジタル教科書に映像コンテンツが収録されたり、MOOC(大規模公開オンライン講座)による授業を配信する動きも活性化しています。本課題研究ではこうした教育分野におけるテレビや放送番組を題材にした研究を幅広く取り上げ、教育におけるテレビの役割について討議します。

課題研究 II	幼児教育とメディア	コーディネータ：堀田 博史 (園田学園女子大学)
---------	-----------	--------------------------

幼児教育でのメディア活用と言えば、テレビやパソコン、タブレットPC、デジタルカメラなどをイメージされることでしょうか。保育のねらいを達成するための補助的役割で、メディアは活用されています。今回の課題研究では、幼児期のメディア活用の様々なジャンルでの実践研究、質問紙や文献調査などを対象に、いま日本でどのような研究が行われているのか、海外との比較も含め集約できたらと考えています。

課題研究 III	情報活用能力の育成と評価	コーディネータ：後藤 康志 (新潟大学)
----------	--------------	----------------------

21世紀を生きる子どもたちにとって必須の能力である情報活用能力の育成については、学習指導要領の各学校段階に位置づけられ、タブレットPCや電子黒板等を活用した多様な実践が展開されています。また評価に関しても、ICTを活用した国際的な学力調査を参考にした「情報活用能力調査」の実施や、パフォーマンス評価など、新たな方向性が検討されています。本セッションでは、こうした流れを踏まえて、情報活用能力をいかに育成し、どう評価に関わる幅広い理論的研究、実践的研究をもとに議論を深めたいと考えています。

- ・課題研究プロポーザル(要旨)の申し込み期間
2014年6月11日(水)～7月14日(月)

※課題研究プロポーザルに必要事項を記入の上、大会 Web サイトより提出してください。課題研究ごとに最大8件を予定しております。選考結果によっては一般発表に回っていただくことをお願いする場合がございますので事前に了承下さい。採否通知は7月末までにおこなう予定です。

- ・課題研究 原稿提出締切 2014年9月16日(火)

(イ) 一般研究 (2 ページ)

原稿提出期間 2014年8月12日(火)～9月16日(火)

※期日までに提出された原稿の受領をもって発表申し込みとさせていただきます。原稿枚数、書式をご確認の上、大会 Web サイトよりご提出ください。なお、一般研究に英文で提出する場合は発表も英語で行って頂きます。英語での論文は10件程度まで受け付けます。

(5) 年次大会の参加費用

		9月12日(金)までに支払いの場合	当日支払いの場合
参加費	会員	5,000 円	6,000 円
	学生会員	3,000 円	4,000 円
	非会員	6,000 円 ※教員の場合2,000 円	7,000 円 ※教員の場合2,000 円
冊子 (追加分)	3,000 円 (郵送料500 円) ※参加費に1冊含まれています。		
懇親会 (10/11 夕刻)	5,000 円 (学生3,000 円) ※懇親会場の都合上、当日参加不可の場合があります。		

※事前申し込み開始日や入金方法については順次 Web サイトに掲載します。

(6) 大会事務局・問い合わせ先

年次大会に関するお問い合わせは下記まで電話または電子メールにてお願いします。

金沢星稜大学 村井研究室内 (本館 5 階 7 号室)

直通電話 076-253-3942 Fax 076-253-3995 (代表)

メールアドレス murai@seiryu-u.ac.jp

2013 年度 第 2 回研究会のご報告

2013 年度第 2 回研究会が、岩手県立大学アイーナキャンパスにて 2014 年 3 月 15 日（土）に開催されました。まだ雪の残るなか、会員以外も含めた大学教員や現職教員、学生の参加のもと、合計で 9 件の研究発表が行われました。

今回の研究会のテーマは「ICT と授業設計・学習支援／一般」であり、本テーマに関連した発表が多くなされました。ICT（タブレット端末）を活用した実践として、小学校算数の反転授業、あるいは高等学校の数学的活動に関する発表がありました。特に反転授業の発表では、先進的な取り組みとして、家庭学習で知識・技能の習得を行い、授業では活用・探究のための協働学習といった学習活動に時間を割いて授業が展開されていました。また、ICT に限らず情報活用型の授業を設計するために、インストラクショナルデザイン（ID）を踏まえた授業デザインシートを開発し改善した研究も報告されました。さらに、メディアリテラシーをキーワードとして、メディアリテラシー学習が教員の ICT 活用指導力にどのような効果を与えるのかを測定した研究や、小学校においてメディアリテラシーを学ぶ新教科を開発して試行を行った研究、絵本のメディア分析モデルを構築した研究がありました。他にも、乳幼児のメディア使用に関する米国の動向、離島をフィールドにしたプロジェクト学習における ICT 活用の検討、学習スキルに関わる大学での授業実践の報告がなされました。これら 9 件の発表後には全体リフレクションとして、発表者以外の会場参加者から感想や意見などをいただきました。反転授業については、ICT の活用に限らず、プリント教材等を使いながら効果的にできる方法も模索していきたいといった意見などがありました。



全体を通して、乳幼児から初等中等教育、高等教育、社会人教育（教員研修）に至るまで幅広く、ICT 活用や情報活用、メディアリテラシーなどの相互に関連しながらも多岐にわたる視点からの発表があり、刺激的で充実した時間となりました。また、このような実践を効果的に行うには、授業設計（ID）の視点がより重要になってくることを再認識する機会ともなりました。参加者が多いとは言えませんが、活発な質疑がなされ、研究の今後の展開にも役立つヒントが得られる有意義な場となっていたと思います。本研究会にご参加いただきました皆様に改めて御礼を申し上げます。

（文責：岩手県立大学 市川尚）

編集委員会ワークショップ（2月8日開催）報告と

論文投稿（21巻2号特集号）のご案内

編集委員会委員長 久保田 賢一（関西大学）

■ 編集委員会ワークショップ（2月8日開催）報告

2014年2月8日(土曜日)、関西大学東京センターにおいて、日本教育メディア学会の編集委員会と企画委員会が合同で「国際連携・国内連携における教育メディア研究」ワークショップを実施しました。ワークショップには、青山学院大学香川秀太先生を講師としてお招きし、国際連携・国内連携による実践を捉える理論的枠組みについて示していただいたあと、下記の3つの事例について議論しました。具体的には、国際連携・国内連携のプロジェクトを「人や組織やコミュニティが発達する機会―越境」と捉えて、そこでどのような発展（学習）が起こるのか、またその発展（学習）を起こすためにはどういった仕掛けやデザインが必要かについて議論しました。この「越境」という観点から国際連携・国内連携の事例を捉えることによって、知識・技術の転移モデルでは見られなかった観点、たとえば、関係性、矛盾、集合体の変革、共変移、喜びとしての学習などに焦点を当てることができることが分かりました。

事例1 「病院ナースと研究者の協働による越境的対話の場のデザイン」

香川秀太（青山学院大学准教授）

事例2 「海外フィールドワークにおけるコミュニティとの関係の中での越境」

山本良太（関西大学大学院博士課程後期課程）

事例3 「越境学習の場としてのワークショップの実践事例」

舘野泰一（東京大学大学総合教育研究センター 特任研究員）

また、後半には、参加者が取り組んでいる実践事例を報告し、これらをどのように論文としてまとめていくかについて意見交換しました。

（文責：明治大学 岸磨貴子）

■ 21巻2号特集号「国際連携・国内連携における教育メディア研究」(Vol. 21, No. 2)のお知らせ

締切:2014年7月31日(木曜日)

本巻の教育メディア研究では、「国際連携・国内連携におけるメディア活用」というテーマで特集を組みます。学校間交流、高大連携、地域社会と連携したサービスラーニング、海外と連携したフィールドワーク、産学連携、オープンコースウェアを活用した学習など、教室の枠を超えた様々な教育実践が多くみられるようになりました。このような教室の枠を超えた実践においてメディアの活用は不可欠です。ソーシャルメディア、TV会議システム、LMSなどの様々なメディアを活用した国際連携・国内連携による教育実践を多様なアプローチから研究している研究論文を募集します。

また、同時に一般論文も広く募集します。

ICoME2014 のご案内

開催日： 2014年8月25日（月）から27日（水）

開催場所： ソウル Korea University

<http://www.korea.ac.kr/do/Index.do>

テーマ「アジアにおける ICT 教育の現在 そして未来（仮）」

・ エントリーの締切： 5月25日

(1) フルペーパー（20分：15分発表、5分ディスカッション）

（タイトル、アブストラクト 200 Words 程度）

・ 採択結果の通知 6月20日

・ フルペーパーのアップロード（6ページ以内） 7月15日

書式に従って投稿ください

(2) ラウンドテーブル（20分：10分発表、10分ディスカッション）

（タイトル、アブストラクト 200Words 程度）

・ 採択結果の通知 6月25日

・ ラウンドテーブルペーパーのアップロード（2ページ以内） 7月25日

書式に従って投稿ください

発表エントリー・投稿先：学会 Web サイトをご参照ください。

<http://jaems.jp/icomel/>

（発表エントリー用フォーム、投稿用フォーマットが準備されています）

第 7 期 第 8 回理事会(定例)議事録

1. 日時 2014年1月29日～2月3日
2. 場所 会則第24条に基づく電子メールによる会議
3. 出席者 理事24名(25名中)
4. 協議事項

※会議に先立ち、会長より会則第24条に基づく電子メールでの会議開催に関する手続きの説明があった。理事は、各議案を承認することについての可否を1週間以内に返信することとした。

<審議事項>

(1) 入会者・退会者について

事務局から前回理事会以降の入会者・退会者について説明があり、審議の結果承認された。

(2) 年次大会日程について

2014年の年次大会(金沢星稜大学)開催日程を、2014年10月11日(土)・12日(日)とすることが承認された。

(3) 年次大会委員会委員長の委嘱について

後藤康志理事を年次大会委員会委員長とすることが承認された。

(4) 理事、年次大会副委員長、大会実行委員長の委嘱について

村井万寿夫会員を会則17条による理事(任期1年)、年次大会副委員長、大会実行委員長とすることが承認された。

(5) 学会通信の台割案について

学会通信台割案(66号まで)が承認された。

(6) 学会ロゴについて

公募・選定・ブラッシュアップを経た学会ロゴが承認された。

<報告事項>

(1) 編集委員会(国内ジャーナル担当)報告

「教育メディア研究」編集の進捗状況が報告された。

論文投稿数を増やす工夫について、編集委員会で議論していることが報告された。

(2) 編集委員会(国際ジャーナル担当)報告

編集委員として次の2名を増員することが報告された。

編集の途中経過が報告された。

(3) 年次大会委員報告

年次大会の準備状況について報告された。

(4) 研究委員会報告

2014年度の研究会は、開催計画について報告された。

以上

日本教育メディア学会 事務局長(第7期)
中橋 雄(武蔵大学)

第7期 第9回理事会(定例)議事録

1. 日時 2014年4月13日(日) 15:00-17:00
2. 場所 東京(武蔵大学)、大阪(関西大学)、千葉(放送大学) 3会場をテレビ会議で結び実施
3. 出席者 会長、理事14名、委任状(会長に一任)10名、監事2名
欠席者 理事1名

4. 協議事項

<審議事項>

(1) 入会者・退会者について

事務局から、前回理事会以降の入会者・退会者について説明があり、審議の結果承認された。

(2) 2013年度事業報告・決算報告案について

事務局から、「2013年度 事業報告・決算報告案」が示され、審議の結果承認された。

(3) 2014年度 事業計画・予算案について

事務局から、「2014年度 事業計画・予算案」が示され、審議の結果承認された。

(4) 論文の種別と査読のプロセスについて

編集委員長から、以下の通り論文の種別と査読のプロセスについて提案があり、審議の結果承認された。

- ・論文種別の説明文について資料に基づき提案された。審議の結果、研究ノートのみ「6～10ページ程度」とする修正を加え、論文種別の説明を加えた投稿規定に改正することが承認された。
- ・論文査読者に提示する査読のプロセスを理解しやすくするための図が示され、承認された。
- ・非会員に査読を依頼する際には、謝金として5,000円を支払うこととすることが承認された。

(5) 年次大会の課題研究・シンポジウムのテーマ・担当者について

年次大会委員長から、資料に基づき課題研究・シンポジウムのテーマ・担当者が提案され承認された。

また、スケジュールについては、審議の結果、以下の点に留意して作成することとした。

- ・1日目の昼に編集委員会企画ランチョンワークショップを開催することとする。
- ・昼休み時間と総会は別の枠にする、総会に続いてシンポジウムが望ましい。
- ・総会がない日の昼休みは各種委員会を開催できるように空けておくこととする。

(6) コンプライアンス委員会について

コンプライアンス委員長(会長)から、2013年4月14日に設置されたコンプライアンス委員会について、委員会設置以降の経緯について報告がなされ、事態の収束を鑑み、これを解散することが提案され、承認された。

(7) 論文投稿時の誓約について(会長提案)

会長から、学会紀要への論文投稿者に「他者の著作権等を侵害する恐れがない」旨を誓約させる手続きを加えるよう投稿票および投稿規定を改定することが提案され、承認された。

(8) 会員名簿について

事務局から、継続審議となっていた会員名簿の作成をするか否かについて、冊子体では作成しないことが提案され、承認された。電子媒体での名簿を作成するか否かについては、継続審議とすることが確認された。

(9) その他

<報告事項>

(1) 編集委員会（国内ジャーナル担当）報告

編集委員長（国内ジャーナル担当）から、『教育メディア研究』編集進捗状況について報告がなされた。

事務局から論文電子化の進捗状況について報告がなされた。

(2) 編集委員会（国際ジャーナル担当）報告

編集委員会（国際ジャーナル担当）からの資料に基づき会長から、IJEMT ジャーナル編集の進捗状況について報告がなされた。今回、自己推薦での論文募集を行ったが、より多くの投稿を促すため推薦と自己推薦両方で募集をしたほうがよいのではないかという意見が出された。

(3) 研究委員会（国内担当）報告

研究委員会（国内担当）委員長から、2014 年度研究会開催日程・場所について報告がなされた。

・2014 年度第 1 回日本教育メディア学会研究会

（2014 年 7 月 13 日（日）：長崎県立大学（佐世保キャンパス））

・2014 年度第 2 回日本教育メディア学会研究会

（2015 年 2 月 21 日（土）：愛知教育大学）

(4) 研究委員会（国際担当）報告

研究委員長（国際担当）代理として会長から、ICoME2014 の進捗状況について報告がなされた。状況が不明確であるため、引き続き今年度開催国である韓国側と連絡をとりあうことが確認された。

(5) 企画委員会報告

企画委員会委員長から、前年度活動報告と今年度の計画について報告がなされた。今年度も企画委員会企画 1 回、編集委員会と合同企画 1 回でワークショップ等の企画をしたいと考えている。

(6) 広報委員会報告

広報委員会副委員長から、前年度活動報告と今後の学会通信発行予定（71 号まで）について報告がなされた。

以上

日本教育メディア学会 事務局長（第 7 期）

中橋 雄（武蔵大学）

訂正通知

日本教育メディア学会編集委員会

「教育メディア研究」第18巻1・2合併号に掲載された展望論文『メディア概念の拡張とこれからの「教育メディア研究」：社会文化的アプローチによる研究方法再考』について、参考文献の記載内容に不足や間違いがあったとの申し出が著者からありましたので、以下のように追加・訂正します。

日本教育メディア学会編集委員会

1. 参考文献に下線部を追記

Clark, R. E. (1983) Reconsidering Research on Learning from Media. *Review of Educational Research*, 53(4), 445-459.

2. 参考文献の訂正

(修正前)Mielke, K. (1968). Questioning the questions of ETV research. *Educational Broadcasting Review*, 2, 6-15.

(修正後)Mielke, K. W. (1968) Asking the right ETV research questions. *Educational Broadcasting Review*, 2(6), 54-61.

以上

学会ロゴの完成

広報委員会

学会通信 65号でお伝えした通り、鈴木雄清氏のアイデアをブラッシュアップさせていただき、学会ロゴが完成しました。学会WWWおよび学会通信の本号から新しい学会ロゴを使わせていただくこととなりました。



◆ 学会費納入のお願い ◆

<納入のお願い>

2014年度(2014年4月1日から2015年3月31日)の年会費(正会員7,000円、学生会員4,000円)が未納の方は、下記口座にお振り込みいただくようお願いいたします。

<送金先>

銀行名：ゆうちょ銀行 種目：普通 店番：418 店名：四一八店（ヨンイチハチ店） 口座番号：0865850 名義：日本教育メディア学会（ニホンキョウイクメディアガクカイ）
--

- ※ 振込手数料は、ご負担ください。ゆうちょ銀行口座からATMを使って納入いただく場合、手数料は無料です。
- ※ ご自身のゆうちょ銀行口座以外から振り込む場合は、振込人名義を「学会名簿に登録した会員氏名」にして下さい。それが出来ない場合は振込後、事務局にメールでご連絡ください。大学事務局を通じた大学名による振り込みは、どなたの会費か判断できないため避けていただくようお願いいたします。
- ※ 過年度年会費をまとめて振り込む場合には、学会事務局にご連絡ください。
- ※ 学生会員は、学生・大学院生（社会人学生を除く）です。会費納入に併せて学生証などの証明書類を事務局宛に提出してください（スキャナ、デジタルカメラ等で取り込んだデータのメール添付でも受け付けます）。

◆ 登録情報更新のお願い ◆

本学会では、「学会通信」および重要お知らせを電子メールで会員に配信しております。また、学会論文誌「教育メディア研究」を郵送しております。これらを確実にお届けするために、学会からのメール・学会論文誌が届いていない方は、事務局までメールアドレス、お届け先住所の情報をお送りくださるよう、よろしくようお願いいたします。

【入会者・退会者】※敬称略

新入会員・正会員（4名）・・・植田 恭子、木村 明憲、加藤 亮介、境 真理子
新入会員・学生会員（1名）・・・石山 大揮
退会者・正会員（1名）・・・白石 義孝
退会者・学生会員（1名）・・・叶 少瑜

会員総数 382名・16団体
名誉会員：3名
正会員：342名
学生会員：37名
団体会員：6団体
購読会員：10団体
(2014年4月24日 現在)

日本教育メディア学会 事務局

〒176-8534 東京都練馬区豊玉上1-26-1
武蔵大学社会学部 中橋雄研究室内
電話：03-5984-4792 E-mail：office@jaems.jp
学会ホームページ URL：<http://jaems.jp/>

広報委員会

委員長 小柳和喜雄（奈良教育大学）
副委員長 永田智子（兵庫教育大学）
副委員長 村上正行（京都外国語大学）